

令和元年度第3回久留米市スポーツ推進審議会議事録（要旨）

開催要領

1. 開催日時：令和元年12月19日（木曜日） 13時30分開会
2. 会場：久留米市荘島体育館 2階会議室
3. 出席者：委員14名
満園委員・堀委員・新井委員・森崎委員・轟委員・中村（博）委員・岩城委員・
中村（敏）・田中委員・中村（智）・佐藤委員・井手委員・高松委員・宮原委員
：事務局4名・学校教育課大峰氏
4. 欠席者：委員4名
馬場園委員・大友委員・古賀委員・松藤委員
5. 傍聴者：なし

議事次第

1. 会長あいさつ
2. 議事
 - (1) スポーツ推進計画策定にかかる関係団体からの意見集約について
 - (2) 次期計画の基本方針・施策の方向性について
 - (3) 次期計画の具体的施策について
3. その他

配付資料

- 資料① 令和元年度久留米市スポーツ推進審議会次第
- 資料② スポーツ推進計画策定にかかる関係団体からの意見集約
- 資料③ 次期計画の基本方針・施策の方向性・具体的施策
- 資料④ 久留米市スポーツ推進計画策定スケジュール（案）
- 資料⑤ スポーツ推進計画（案）本文（抜粋）

議事録

1. 会長あいさつ

限られた時間の中でスポーツ振興を具体的に進めていく難しさを感じています。少しでも前に進めていけるよう、皆さんの貴重な意見をいただきたいと思います。

2. 議事（事務局より説明）

- (1) スポーツ推進計画にかかる関係団体からの意見集約について。事務局より説明
- (2) 次期計画の基本方針・施策の方向性について。事務局より説明
- (3) 次期計画の具体的施策について。

<質疑> ①スポーツ推進計画にかかる関係団体からの意見集約について

【委員】

必要な共生スポーツについて書かれていて、これでほとんど充分だと思う。施設によって貸し出しを許可をするしないなど、出てくると思う。障害者、高齢者、子ども達も含めて、今から真夏暑くなっていくなかで、エアコンがない施設に関する問題が出てくるのではないか。

【委員】

障害者スポーツ指導者の研修制度とはどのようなものか？

【委員】

日本障害者スポーツ協会が出している資格が一番ベースにはなると思う。初級・中級・上級という風になっている。

【委員】

そのような制度があるが、久留米市としてどのように活用していくつもりなのか

【委員】

福岡県全体から言うと福岡市、北九州市などにサポートの会というものがある。県南にはまだサポートの会は設立していない。その為、久留米市も公認の障害者スポーツ指導員の方のリストアップをしてほしい。最終的には県南などに久留米市独自の協会を作りたいと思っている。

【委員】

福岡市だと、福岡ハンディキャップスポーツの会という歴史が長い会がある。そこがクローバープラザやサンサンプラザに関わって運営していたが、どちらも運営が厳しい状況である。クローバーの方も指導員が二人しかおらず、現場は回っていない状況がある。久留米市についても考えないといけない。また、体協の各競技団体の構成メンバーは何人かと

という話が、前回の会議でも出たが、調査中ということだった。障害者スポーツだけではなくて、すべての関係部局で数字を把握したうえで具体的に議論しましょうよという結論だったと思う。

【委員】

各機関の方から仕事で一番忙しい世代の運動実施率が低い。これに対して具体的な施策としては、気軽にスポーツや運動ができるというところで教室や講座の開催が必要だと思う。優先順位を仕事からスポーツとかに向けてもらう必要がある。事務局としては土日のスポーツ大会等での利用を制限して、市民がより使いやすいようにするようになりたいが、難しいと思う。一般利用、市民が土日につかえる環境づくりとしてどういった方法を考えているのか。

【事務局】

各団体に意見を伺い、例えば月一回予約を入れさせない日を設けて、市民が普段気軽に利用できるようにするなどできたらいいと思う。今後、指定管理者と調整をしていきたい。

【委員】

久留米アリーナは（土日）一般開放日はあるのか。長年、野球場は月に一度、必ず土日一般開放で開ける。様々な競技団体がいる中で、競合するとは思いますが、その調整は必要になると思う。

【事務局】

久留米アリーナと一般開放について話をした時、空いている土日祝日について無料の解放デーを計画しているというご意見を頂戴した。

【委員】

特に久留米アリーナは大規模大会の誘致に有効に使えるので、月に一回ぐらい市民に開放したほうがいいでしょうが、競技団体も多く、大会を誘致することによって久留米の活性化することもあり、他の体育館を誘導するのもありだと思う。

【委員】

土日は、大規模大会を行うほうがいいと思うが、平日の空いている時間帯に開放をするというのもありだと思う。

【委員】

主に拠点化、時間帯の住み分けということだが、数字がないと話が出来ないと思います。競技や運動の機会を作るとするのは調整機関が絶対に必要だ。それも行政なのか民間なのか、住み分けが必要だ。もう一点、競技団体とうまくコラボすれば、市民利用の時間は作れる。考えようによっては初心者を入れてやるとかを導入としてはいい機会になると思う。

②次期計画の基本方針・施策の方向性について

【委員】

スポーツ参画人口の拡大の具体的施策に「学校体育及び部活動の充実」とあるが、一番目の議題と重なる。文科省が学校の施設を生徒・児童が使わないときに市民が、施設の有効利用をできるようにすることだったと思う。教育委員会と協議していく必要がある。

【事務局】

それは学校体育なので、小・中学校が主ですが、学校体育の授業、学校のイベント等があるときは使えないため、それ以外の放課後や土日の時間を通して「学校施設開放事業」として現在も取り組みはしているところです。

【委員】

どれぐらいの時間を開放しているのか、実際の指導体制といったところで、有資格者なのかなどがわかると策定を進めるうえで不足していることなどが見えてくるため、データが必要である。

【事務局】

前年度の数字だと、市内小・中学校・特別支援学校まで合わせて述べ年間約 77 万の方が学校施設開放事業で使われた人数である。

【委員】

シーズンごと、曜日ごと体育館なのか、グラウンドなのか、等データを整理してもらうとよりわかりやすいと思う。

【事務局】

審議会の中で報告という形で資料集のなかに入れてさせていただいています。

③次期計画の具体的施策について

【委員】

意見ですが、今調査中の目標の数字が出てくるのに違和感を覚える。数字について、今後考えていってもらいたい。スポーツをする市民の拡大というところ、小中学校のスポーツ・体力テスト、全種目で全国平均を上回るとなっているが、全国平均を上回る必要があるのかと思う、再検討して頂ければと思う。

【事務局】

福岡県が同様の目標設定をしているということもあり県の情報も参考にしながらこのような目標設定をしている。

【委員】

全国的に小中学生の野球離れがひどいため、スポーツを遊ばせ、楽しませることに重きを置きたいと思う。

【委員】

スポーツ機会の提供・充実について、20～50代の仕事や家事、託児サービスの提供、また育児中の人が、参加しやすい仕組みをぜひ考えていただければと思う。

【委員】

私もスポーツ・運動が楽しいと思う子供を増やしたいと思っている。今の小学生は投げる力というのがなく、学校でも向上に向けて色々取り組んでいる。

【委員】

投げる力は、野球人口が減っていることが影響している。今はサッカーの競技人口が増えており、手を使わないため、高校大学でラケット競技が出来ないこともある。

【委員】

一番基本のスポーツや運動が持つ力、単に体力や技術の向上ではなく、スポーツそのものが生きがいになったり、仲間作りで豊かな地域社会がつかれるということをどこで、どのどういうふうにも明示していく考えなのかを聞きたい。また、スポーツ関係の情報発信のところをだが、情報を市民に向けて案内するまでにとどまっており、スポーツ自体の本論ではない。今年久留米で野球の全国大会を開催したが、競技者・地域経済にとって非常に有効だった。それを戦略的に市内外に向けて発信した方がいいのと思う。調査から得て何を指すかを目標にした方がいいのではと思う。

【事務局】

宮原委員の意見については、頭の部分で計画の理念などを基本方針の下に文を作る部分でスポーツの魅力について一言書くというのはどうかと今考えているところです。

【委員】

体力・運動テストに関していうと文科省が横断的な比較にしか使っていない為、縦に繋げることができる、自分たちがどう変わるかということを考える材料になる。

【委員】

外部指導者の話で、総合型地域スポーツクラブに補助金を交付していた。補助金の支援はやっているのか。それはあとでいいが。外部指導者の事も少し考えていかないといけないのかなと思う。強み弱みに対して早いうちに強化をしていった方がいいと思う。

【事務局】

補助金等の金銭的な支援は平成 28 年度の桜花台クラブを最後に終わった。今は市内クラブとともに自主財源、会費や地元の協賛金などで自己運営が出来ている状態。それから外部指導の取り組みについて、現在も総合型クラブのなかで、例えば学校のプールの授業に対するサポートとか、そのあたりで総合型のひとつのクラブが体育の授業のサポートとして入ったり、現在も外部指導として対応している。

【委員】

市から補助金など出ていたが、今は活動に対しての補助はない。長寿支援課などの他の課の方からの事業実施の委託を受け、その委託料もらっているような状況。

【委員】

久留米の総合型はよくやっていると思う。補助金に頼ったらいけない。やはり久留米の総合型地域スポーツクラブは大事にしてほしいと思う。

また、これから数字をもとにしてどう集約していくかということがこれからの作業になっていきますので、そのためにも現状認識の為に現状把握をして優先順位をつけていくことが必要になってくると思っている。

【委員】

久留米信愛短期大学の中には子育て支援施設がある。市から嘱託をして子育て支援講座を年間十何本かやっているのだが、10 名程度の小規模な教室だが、すぐに予約がいっぱいになり需要はすごくあるのだといつも実感している。スポーツというカテゴリー外に情報網を張っている人たちにいかにアプローチしていくか。スポーツというカテゴリーの外側に意識が向いている人に「体を動かすことの楽しさ、生きがい、触れ合い」について感じていただけるような仕組みもいいのではないかと感じた。託児サービスに関して、一番参加しづらい世代の方々がスポーツに親しむ、親しめる土壌をつくっていただければ嬉しく思う。

【委員】

運動されていない方が自ら運動・スポーツをするだけでなく応援する側に回っていただくだけでも全然違う。「する・みる・ささえる」でもつながりが出来てくると思う。

【委員】

自分は高齢者の方に入ってきている。高齢者はスポーツというカテゴリーで何か体を動かすという年齢ではない。スポーツじゃなくて体を動かせる機会・場所を小規模でもいいから市が作っておいてくれると、自分たちはもっと行くようになり、医療費もかからなくなる。波及効果がいろいろ出てくると思う。難しいでしょうけど。

【委員】

コミュニケーションがコミュニティーにつながるといういいですね。そういった意味では保健所との連携は絶対に必要です。保健所がいろいろな場を持ってそこがコミュニティーと運動、そして子育て支援という形での講座とかも行っておりますので、情報共有とかできる。障害者スポーツは生涯わたってやるというキャリアとしての“生涯”者スポーツにもなりますから。だから最終的には障害者の方々にやさしいスポーツ・運動環境というのはすべての人にとって競技できる環境になるというのは間違いない。それがコミュニティーにつながっていくと横のつながり・縦のつながりができるようなそういったものができるというなと思う。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございました。

次回の日程について。1月30日の木曜日10時からの開催予定となります。